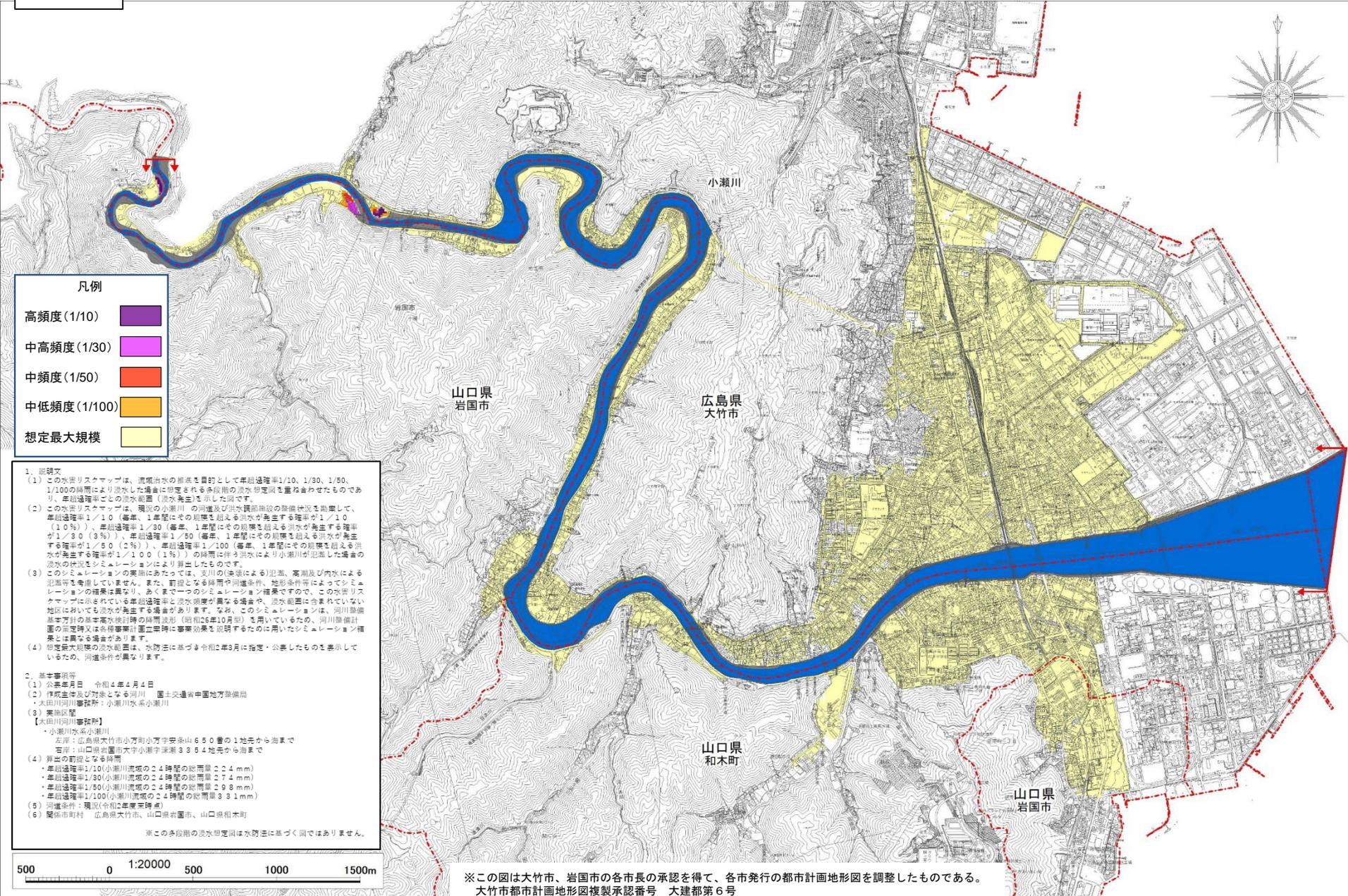


# 小瀬川水系 大臣管理区間からの氾濫を想定した水害リスクマップ

## 【現況河道】

浸水が想定される範囲を表示

暫定版



凡例

高頻度 (1/10)	■
中高頻度 (1/30)	■
中頻度 (1/50)	■
中低頻度 (1/100)	■
想定最大規模	■

1. 説明文

(1) この水害リスクマップは、流域内水の流れを目的として年超過確率1/10、1/30、1/50、1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定範囲を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図です。

(2) この水害リスクマップは、現況の小瀬川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率1/10（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%）、年超過確率1/30（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/30（3%）、年超過確率1/50（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/50（2%）、年超過確率1/100（毎年、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%））の降雨に伴う洪水により小瀬川が氾濫した場合の浸水の状況とシミュレーションにより算出したものです。

(3) このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等も考慮していません。また、町域となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水想定範囲が異なる場合や、浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合があります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検算時の降雨波形（昭和26年10月型）を用いているため、河川整備計画の進捗又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

(4) 想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき令和2年3月に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

2. 基本事項等

(1) 公表年月日 令和4年4月4日

(2) 作成主体及び対象となる河川 国土交通省中国地方整備局  
・小瀬川河川事務所・小瀬川水系小瀬川

(3) 実施区間  
【小瀬川河川事務所】  
・小瀬川水系小瀬川  
左岸：広島県大竹市小方町宇奈楽山650番の1地先から海まで  
右岸：山口県和木町大字小瀬宇深瀬3354地先から海まで

(4) 降雨の前提となる降雨  
・年超過確率1/10（小瀬川流域の2.4時間総雨量224mm）  
・年超過確率1/30（小瀬川流域の2.4時間総雨量274mm）  
・年超過確率1/50（小瀬川流域の2.4時間総雨量298mm）  
・年超過確率1/100（小瀬川流域の2.4時間総雨量331mm）

(5) 河道条件：現況（令和2年度末時点）

(6) 関係市町村：広島県大竹市、山口県岩国市、山口県和木町

※この多段階の浸水想定範囲は水防法に基づく図ではありません。

※この図は大竹市、岩国市の各市長の承認を得て、各市発行の都市計画地形図を調整したものである。  
大竹市都市計画地形図複製承認番号 大建都第6号  
岩国市都市計画地形図複製承認番号 平27都市第694号